

○大学の世界展開力強化事業～COIL型教育を活用した米国等との大学間交流形成支援～

平成30年度予算額(案) 2.7億円(新規)

【背景】

- 情報通信技術をはじめとする科学技術の発展や急速なグローバル化が進展する時代に生き、社会に貢献していくには、想定外の事態に遭遇したときに、そこに存在する課題を発見し、多様な文化的背景を持った人々と協働しながら解決につなげる能力が求められる。
- 経団連の調査によると、経営を進める上で、**グローバルに活躍できる人材不足**が大きな経営課題として認識されている。また、グローバルな舞台で活躍する人材は、**多様性への理解や寛容性**が必要であり、**主体性やコミュニケーション能力**などは大学卒業時に学生が身につけていることが期待されている。更に、大学に対して双方向の留学生交流推進や、学生の主体的・能動的学びを促す双方向型の授業への転換に期待がある。

米国



2017年1月トランプ大統領就任



- 米国では、1990年代の情報スーパーハイウェイ構想を背景に、遠隔教育分野の普及が飛躍的に進捗。
- 一方、国外へ留学する学生(アウトバウンド)がOECD加盟国と比較して少ない。
- アジア系以外の学生にとってなじみの薄いアジアを留学先として選ぶ学生は少なく、日本への留学生数はわずか1.9%であり、知日派人材の育成が急務。



- こうした状況を打破するため、米国教育協議会(ACE)から文部科学省に対して、COILを活用した日米大学間協力構想の提案あり。
- 官邸の「グラスルーツからの日米関係強化に関する政府タスクフォース」においても、「オンライン共同事業を通じた日米大学生の交流の活性化」が行動計画に位置付けられている。

【事業概要】

- オンライン国際協働学習(COIL※)方式に基づく、我が国の大学と米国の大学との大学間交流を支援。
※ COIL (Collaborative Online International Learning) : オンラインを活用した国際的な双方向の教育手法
- 本事業で構築したモデルケースを戦略的に発信するとともに、プログラム構築に係る大学間のマッチングを行うプラットフォームを構築する大学を選定・支援。

オンラインによる教育手法を国際的な大学間交流に応用したCOIL方式は、地理的条件を問わず、自国にいながらも異なる言語や文化的背景を持つ海外の学生との協働学習機会を提供できる。

【本事業で期待される効果】

(採択予定件数) 交流推進プログラム: 9件
交流推進・プラットフォーム構築プログラム: 1件

大学

- ・海外大学との連携強化による質の高い教育プログラムの構築・実施
- ・アクティブ・ラーニングへの転換による教育の質向上
- ・国際的協働教育活動を通じた教員の質の向上

- ・効率的に多くの学生に国際的な教育機会を提供
- ・大学全体の国際化推進
- ・地方大学における国際的協働教育活動の推進によるグローバル人材の輩出(地方創成への貢献)

学生

グローバルに活躍するための
資質・能力向上



COIL (Collaborative Online International Learning) について

COILとは

Collaborative (協働・交流)
Online (オンライン)
International (国際)
Learning (学習)

オンライン教育手法の進化を国際的な大学間交流に応用した、国際的・双方向的な新しい教育実践の方法。
情報通信技術 (ICT) ツールを活用し、海外の学生と様々な分野のプロジェクトをバーチャルに連携しながら実施することで、国内に居ながら海外大学の学生と協働して学習できる。

本事業では、大学間協定を締結した海外連携大学との間で、COIL型教育を活用した、単位認定、成績評価などの質の保証を伴う先導的な国際教育プログラムの開発・実施を行う我が国の大学を支援。

